



海洋ごみ問題ジブンゴト化プロジェクトin広島 (CFB・海と日本2022)

海洋ごみ問題ジブンゴト化プロジェクトin広島実行委員会

<プロジェクトに自治体・企業・プロスポーツチームを巻き込み、大きなうねりを起こす！！>

広島エリアの課題である「無関心層へのアプローチ」をいかに効率的にかつインパクトをもって実施するかを念頭に事業を設計。事業のキーとなるのは、“影響力のある企業・コンテンツとの連携” 西日本流通の雄であるイズミ、そごうとの連携。中国電力・サンフレッチェ広島・広島県・福山市など、複数団体と連携を通して、より大きくインパクトのある企画の実施に成功。11月以降には有名菓子製造メーカーにしき堂×サンフレッチェ広島とのコラボ商品企画を予定。来年度は、多角的アプローチにより、これまで以上に大きなうねりを起こす。

2022年度 実施状況について

■ごみ拾い連携モデル

<課題・背景>

瀬戸内海には年間4500トンもの海洋ごみが流入している。



・概要：県内の象徴的な場所でごみ拾いを実施
・目的：幅広い自治体・団体と連携することでより多くの参加者を結集。ごみ拾いの輪を広げる。
・場所：宮島・しまなみ海道(因島)・中工場など
11月には阿多田島大規模清掃も実施！
・連携先：広島県・(株)イズミ・NPO団体ほか
・効果：10月末時点で参加者は664名

■スポーツ連携 (カープ・サンフレッチェ)

<課題・背景>

広島2大スポーツと連携することで広島全体の海洋ごみ対策に対する機運を高める。



・概要：カープファン・サンフレファンを対象に実際に清掃活動を体験できるスキームで海洋ごみ問題を啓発。
・目的：広島県民の大きな関心事の1つである地元プロスポーツを切り口とすることで、より多くの県民に訴求、大きなムーブメント創出の足掛かりとする。
・場所：マツダスタジアム周辺やエディオンスタジアム
・効果：サンフレッチェ広島と連携した試合の入場者数は7,165名

■宮島教育モデル開発

<課題・背景>

海に親しみを感じていない10代は4割。さらに10代の4割がこの1年間海についていないというデータも。



・概要：宮島を舞台に瀬戸内海について深く学べる新教育モデルを開発す
・目的：楽しさ・美しさ・海ごみの現状等、瀬戸内海について多角的に学ぶことで若い世代の「瀬戸内海を守りたい」という意識を醸成する。
・場所：宮島
・連携先：中国電力・宮島水族館・NPO団体他
・効果：800名以上が宮島水族館クイズラリーに参加。「瀬戸内海についてよく学べた」「瀬戸内海を未来に残すしたい」等の意見が多数寄せられた

■イズミ連携モデル

<課題・背景>

食品トレー・プチプチの再利用について、大型流通と連携をして周知啓発・行動促進。



・概要：LECTに食品トレーとプチプチ回収ブースを設置
・目的：食品トレー・プチプチの再利用について周知啓発・行動促進
・場所：LECT
・連携先：イズミ・川上産業

その他：にしき堂×サンフレッチェ広島コラボ商品企画、イズミ連携リサイクル促進モデル等を調整中

メディア露出



2023/1/20
「瀬戸内海の離島を救え！
海ごみ一掃大作戦！(仮)」
阿多田島清掃特番



6/17「イマナマ！」
カープ×プロギング



6/27「イマナマ！」
LECT食品トレー回収イベント



10/18「イマナマ！」
スポGOMI甲子園2022広島予選

その他：TV10本 ツイートインプレッション 69,225件 (10月末時点)

2022年度の課題とこれからの展望

来年度はG7サミットの開催があり、広島、そして瀬戸内海がこれまで以上に注目されることが予想される。今年度までに培ってきた企業・地域等とのつながりをより大きな展開へと昇華させ、広島県内だけにとどまらない大きな視野で強くメッセージを発信する。